

1. 日 時 令和元年10月25日（金）午後6時～午後8時10分

2. 出席者

豊泉会長、白川副会長、和田委員、稲葉委員、小坂委員、坂本委員、内野委員

3. ご挨拶

会 長：本日の審議会を持ちまして、今期審議会としては最後の審議会となります。引き続き委員をお願いする方も多いかと思いますが、区切りとなりますので、よろしくお願いたします。

4. 報 告

1) 事業報告・予定について

事務局より「歴史民俗資料館・古民家園来館者数一覧」、今年度7月から10月までの「歴史民俗資料館・古民家園事業報告」、10月から1月までの「歴史民俗資料館・古民家園事業予定」について、各資料にそって説明。

2) 埋蔵文化財調査について

事務局より、今年度7月から10月までに現地調査を行った「埋蔵文化財調査報告」について、資料にそって説明。

3) 国宝石幢の保存修理事業について

事務局より、「国宝石幢防災・修理事業の係る年次計画」について、資料にそって説明。

委 員：現在石幢が置かれている場所は、昔から在った場所なのか。

事務局：江戸名所図会にはもっと西、中央線よりに描かれており、明治時代には本堂の前に移された後、現在の場所に移設されているが、保存庫を建てて石幢を置いたのか、石幢の周囲に保存庫を建てたのかの記録は定かでない。

委員：市が発行した写真集の表紙を飾っている、石幢が露天に置かれている写真を見ると、周囲の状況から現在の場所と同じなので、そこに保存庫を建てたのだろうが、その際に四天王の並びを誤ってしまった可能性もあるのではないだろうか。

委員：国宝指定の前か、後か。

事務局：指定後。石幢は、旧法で大正2年に、新法で昭和28年に指定されている。先程に並びが違っているとのお話は、東西南北との合せ方等を含めた、本来の形態等、保存検討委員会で有識者のご意見をいただきながら検討していくことになる。

しかし、中身がコンクリートで固められており、修理で外せるのか、調査結果を見定めたいうえで進めていきたい。

委員：関東大震災クラスでも倒壊しないレベルでコンクリートを流し込んだとも聞いているので、そうだとすると大きなコンクリートの柱に着けられている状態と推測するが。

事務局：石幢の基礎が切り離せるかどうかの確認こそが主眼であり、今回の事業の大前提となるが、仮に難しい場合でも現在の場所が土砂災害警戒区域に該当するので、現状のままというのも問題と考えている。

4) 市指定有形文化財「阿豆佐味天神社本殿」修理工事について

事務局より、市指定有形文化財「阿豆味天神社本殿修理工事」について、口頭で説明。併せて、修理後の特別公開事業について、資料にそって報告。

事務局：本日、実際に修理を終えた本殿を審議会でご確認いただく予定でしたが、悪天候の為中止とさせていただきました。改めましてご確認いただける機会を設けさせていただきたいと考えている。

委員：明治期に塗られた彩色の要素が大きかったなので、当初は塗られていなかったとの判断もあったが、今回全てを剥がしたところ風化した痕が

残っており、当初から塗られていたことがはっきりした。また、祝詞には寛保元年の修理の記事を残すが、上棟等の具体的な部位を示す記載はないので、造當時の祝詞ではないのだろう。文化、文政期頃になると地元の大工が育っているのに修理等は担っているが、この社殿は地元の大工ではない。まだ、腕のある大工がそうは居なかった頃からしても、棟札のとおり宝永5年造営と見るのが妥当と考える。

委員：この件とは関係ないが、蚕影神社跡が文化財指定されているが、現在阿豆佐味天神社に合祀され社も跡もないので、考える必要があると思っているのだが。

事務局：跡ということで史跡指定をしているが、境内地に在ったということで、明確にこの場所という訳ではなく、旧跡に近い概念で指定されている。

5) 公共施設再編個別計画に係る「全市施設ワークショップ」の開催について事務局より、「健康会館 ドリーム学園 練成館 歴史民俗資料館 全市施設検討ワークショップ」について、資料にそって説明。

事務局：資料館からの推薦として、審議会から委員1名、利用団体の立川民俗の会から2名、とんからりん機織りクラブから2名ご参加いただき、ご意見をいただきたいと思っている。

各委員：審議会委員からの推薦者について了承。

5. 議 題

1) 市指定文化財の指定について

事務局より、「文化財指定について」、口頭で説明。

事務局：立川重良感状について峰岸委員より、五十嵐家の来歴を記した家伝資料として重要な文書ではあるが、地域の歴史変遷と記載年号に齟齬があるので指定文化財としては、更なる調査が必要とご解説をいただきました。また、関連する資料で刀剣と槍があり、近隣の博物館で刀剣

に詳しい学芸員に鑑定を依頼したところ、制作、使用年代については消去的に室町時代と考えられるという状況で、銘も鍛冶師と同一かということも慎重な検討が必要という解説をいただいた。

－ 実物確認（補足説明） －

事務局：刀剣類について文書に記録もなく、資料としても不明な点が多いので、傍証する追加資料を待って、五十嵐家資料の文化財指定を検討したい。

3. 情報交換

省 略

次回開催予定：令和2年1月24日（金）午後6時～